

# 大学におけるソーシャル・ネットワーキング・サービス (SNS) の活用に関する研究

渡辺博芳研究室 高山 裕伴 中嶋 克寿

## 1.はじめに

本大学内の情報サイトにはコミュニケーションに特化したものがない。そこで我々は本大学内においてソーシャル・ネットワーキング・サイト（以下 SNS）という情報サイトの運営を行い、有用性を検証した。SNS とは会員制のサイトであり、友人、知人間のコミュニケーションを促進する手段や場所として利用されている。例えば、日本福祉大学では全学生、全教職員向けに fuxi[1] という SNS を提供している。

本研究では、「大学において SNS がどのような場面で使われるかを調査すること」を目的とする。本稿では、そのために行った運営や運用結果について述べる。また、本研究のために運営している SNS を以下「帝京 SNS」と記述する。

## 2.帝京 SNS の方針

### 2.1.帝京 SNS の利用方法と予測

我々の目指す SNS とは学生がメインユーザーとなるものである。そのため以下のようなコミュニケーションの場をあらかじめ作成することで、学生間のコミュニケーションの円滑化を図った。

(1) 就職活動をした、あるいはこれから行う学生間のコミュニティ

(2) 同じ研究室に所属している学生間のコミュニティ

### 2.2.帝京 SNS の利用方針

本研究は参加者を帝京大学の関係者に限定しているため、多くの SNS と同様に参加者からの招待がないと参加できない仕組みにした。学生への招待メールは帝京大学内で使われているメールアドレスを使用し、OB・OG から参加要請があった場合は学生時代に利用していた学科名や学籍番号を登録してもらうことで大学関係者以外の登録を未然に防ぐことにした。

## 3.帝京 SNS の運用

### 3.1.準備と公開

#### 3.1.1.利用規約

利用規約は mixi[2] のものを参考にして作成した。mixi の利用規約を簡易化し、細かい法的手続きや同じような項目を省いた。また、データが消去されてしまう等の危険性を、データの管理という項目で新たに記述した。利用規約を読まずに登録してしまう学生がいる恐れがあるため、ログイン画面上に注意書きを作成した。

#### 3.1.2.学生への公開開始

公開にあたり招待メールの配信を行った。招待メールは一度に全学生には送らず、本研究班が所属する情報科学科にのみ配信を行い、不具合等の様子を見ながら他学科の学生にも配信を行った。

### 3.2.運営・管理

本研究班は三日ごとに登録者の人数等の調査を行っている。また、SNS の運営や管理において最も気をつけなければならないのは誹謗中傷等の利用規約違反である。そのため運営班は定期的に SNS にログインし、書き込みの確認を行っている。実際にあつたトラブルとしては帝京 SNS に登録ができないというものがあつた。これは大学関係者以外からの登録を防ぐ目的で登録できる学籍番号の範囲が指定されていたために発生したものだった。

### 3.3.広告活動

帝京 SNS を広めるために情報関連の授業で時間を頂き、帝京 SNS と登録方法について説明を行った。それ以外にもサークルや学生組織に SNS の説明、勧誘を行った。また、ポスターを設置し、学内イベントの際にはチラシを配布する等の活動を行った。

## 4.運用結果

### 4.1.登録者とアンケートの状況

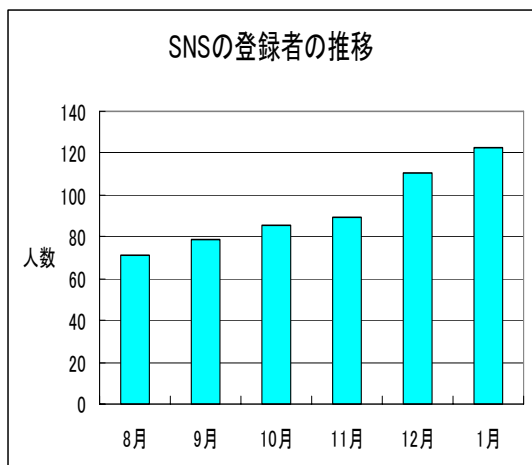


図1：SNSの登録者の推移

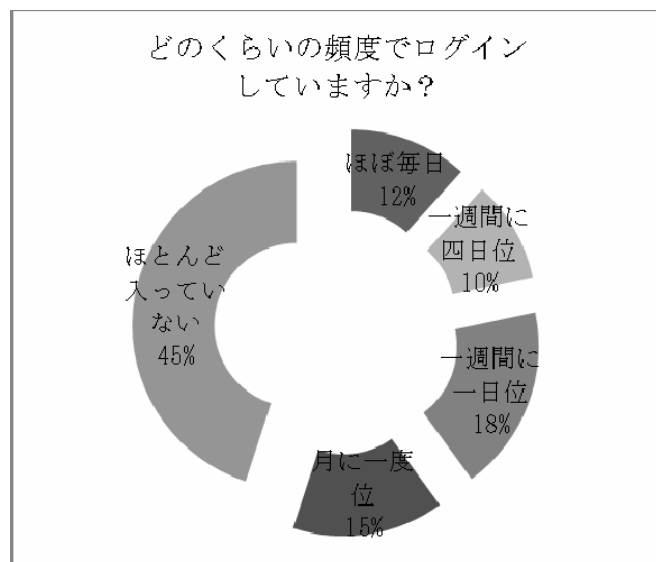


図2：ログイン状況のアンケート

表1：SNSの登録者とログインの状況

| ログイン状況 | SNSの登録者数(人) | 当日(人) | 二日以内(人) | 三日以上(人) | 未ログイン(人) |
|--------|-------------|-------|---------|---------|----------|
| 8月     | 70.9        | 13.7  | 3.2     | 46.1    | 2.9      |
| 9月     | 78.5        | 17.1  | 3.9     | 58.5    | 3.0      |
| 10月    | 85.6        | 13.7  | 3.3     | 64.6    | 4.0      |
| 11月    | 89.0        | 15.4  | 3.3     | 66.3    | 4.0      |
| 12月    | 110.3       | 21.2  | 5.0     | 79.6    | 4.5      |
| 1月     | 122.4       | 25.0  | 5.0     | 88.4    | 4.0      |

図1と図2は登録者の推移と帝京SNSに関するアンケートの結果である。また、表1は登録者の人数とログイン状況を表す表である。「当日以内」というのは三日ごとに行った調査の日時から登録者全員のログアウトを行った時刻までの時間である。当日と記述されてはいるが日付が変わってしまっても調査の日時から24時間以内であれば「当日以内」となる。例えば登録者が帝京SNSに入り、調査を行った日時より24時間以上48時間以内にログアウトを行えば「二日以内」にカウントされる。

### 4.2.考察

図1を見てみると登録した人数は着々と増えてはいるが、実際には日記等SNSの機能を活用しているユーザーは少ない。図2のアンケートの結果を見ても「ほとんど入っていない」が45%を占めている。しかしながら、表1の「SNSの登録者数」と「当日以内」の数値から帝京SNSの24時間以内の平均ログイン数を出すと全体の約19%がログインしていることがわかる。また、図2から一週間に一度以上ログインを行っている人が40%になることから帝京SNSがある程度運用されたと言える。

### 5.おわりに

本研究では帝京SNSを運営し、大学においてSNSの有用性を検証した。図1のグラフから徐々にユーザーが増えていることや表1から毎日の平均ログイン数がある程度は存在するため、定常的に利用されており有用性はあると考えられる。

今後の課題としては以下が挙げられる。

- SNSのコンテンツを充実させる。
- SNSの広告を工夫する

### 参考URL

- [1]fuxi : <https://nfu.jp/sns/> (2008年1月アクセス)  
 [2]mixi : <http://mixi.jp/> (2008年1月アクセス)